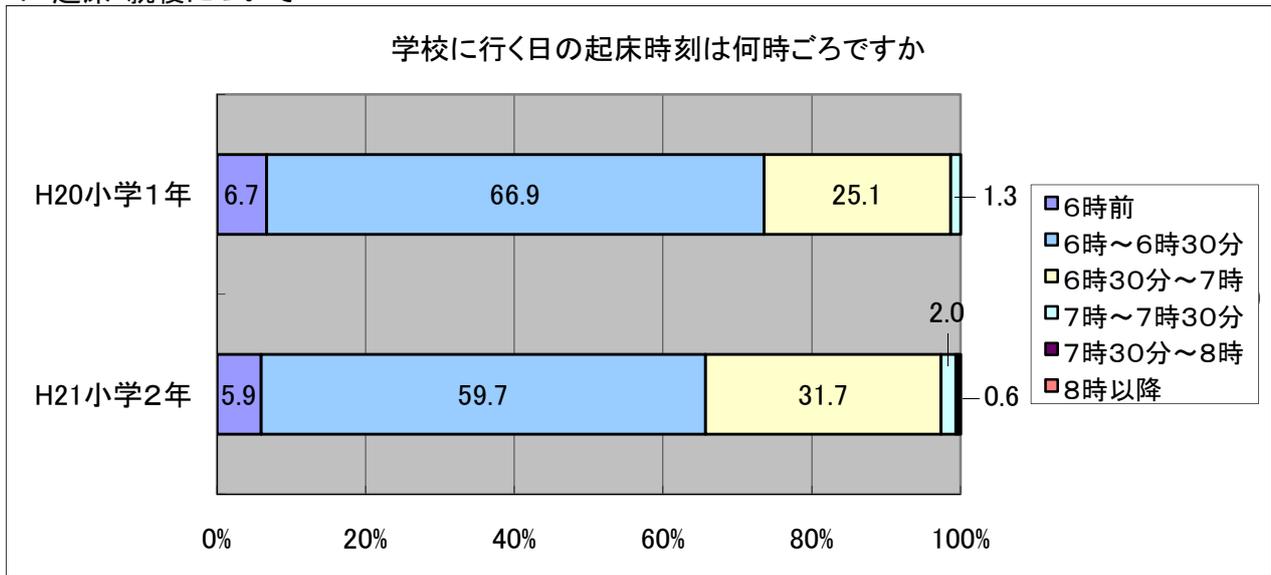
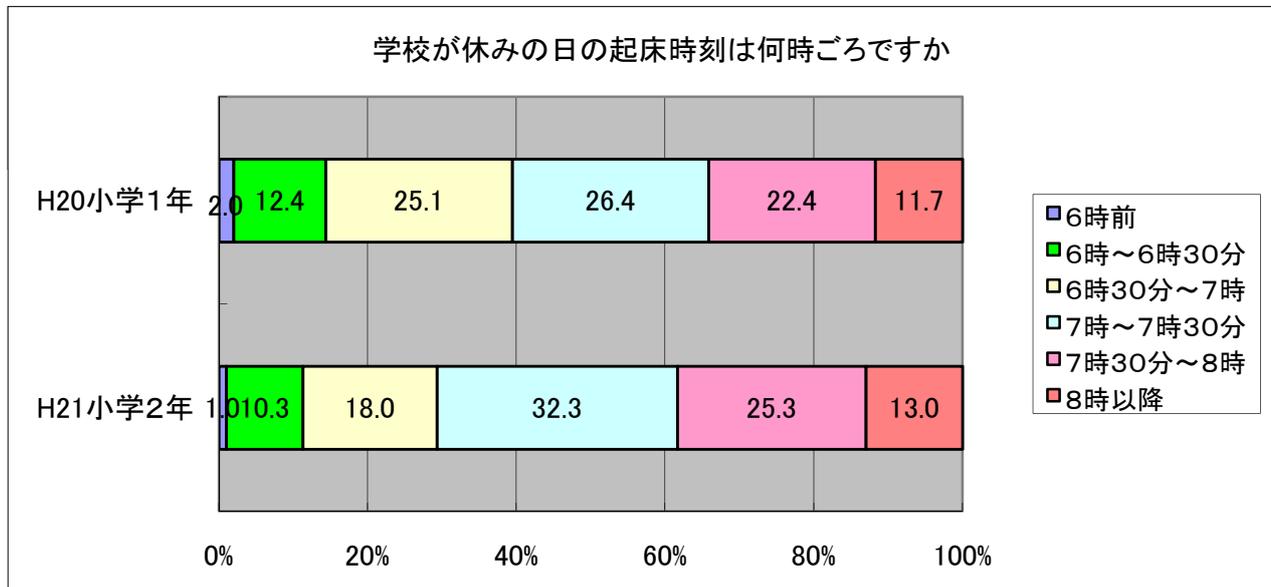


H20小学1年生とH21小学2年生の調査結果の比較

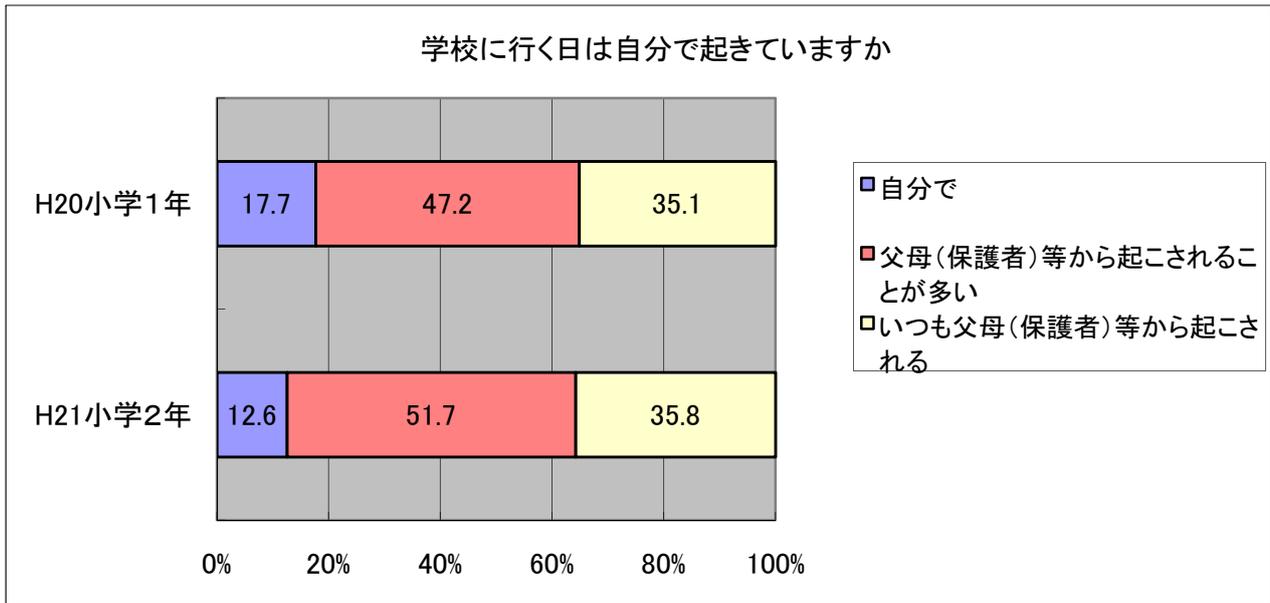
1 起床・就寝について



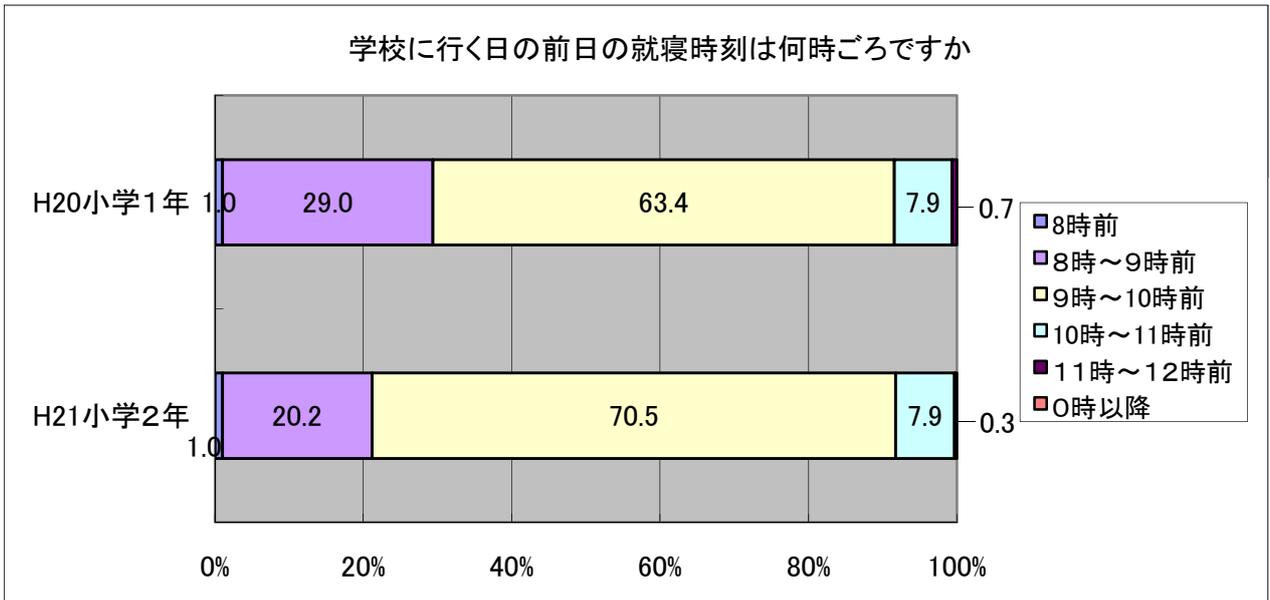
6時30分までに起床する児童が8%減少し、6時30分以降に起床する児童が8%増加した。これは、調査時期による差(H20:10月実施、H21:12月実施)ととらえるが、7時以降に起床する児童が2.6%であったことは、今後の改善点である。



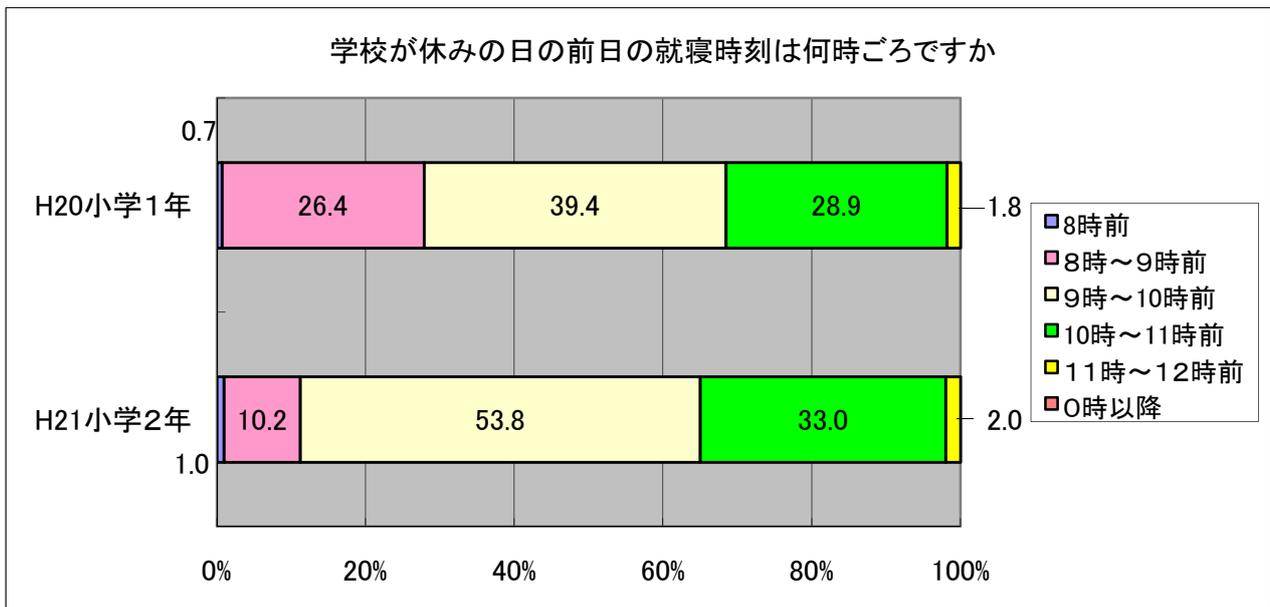
6時前から8時以降まで起床時刻に差が見られた。一番多かったのは、7時～7時30分であり、平日と比較すると約1時間遅くなっている。休日朝の生活スタイルには家庭により実態が違ってくる。



いつも保護者から起こされる児童は、H20とほぼ同率であったが、自分で起きる児童は約5%減少した。今後の課題としてとらえたい。

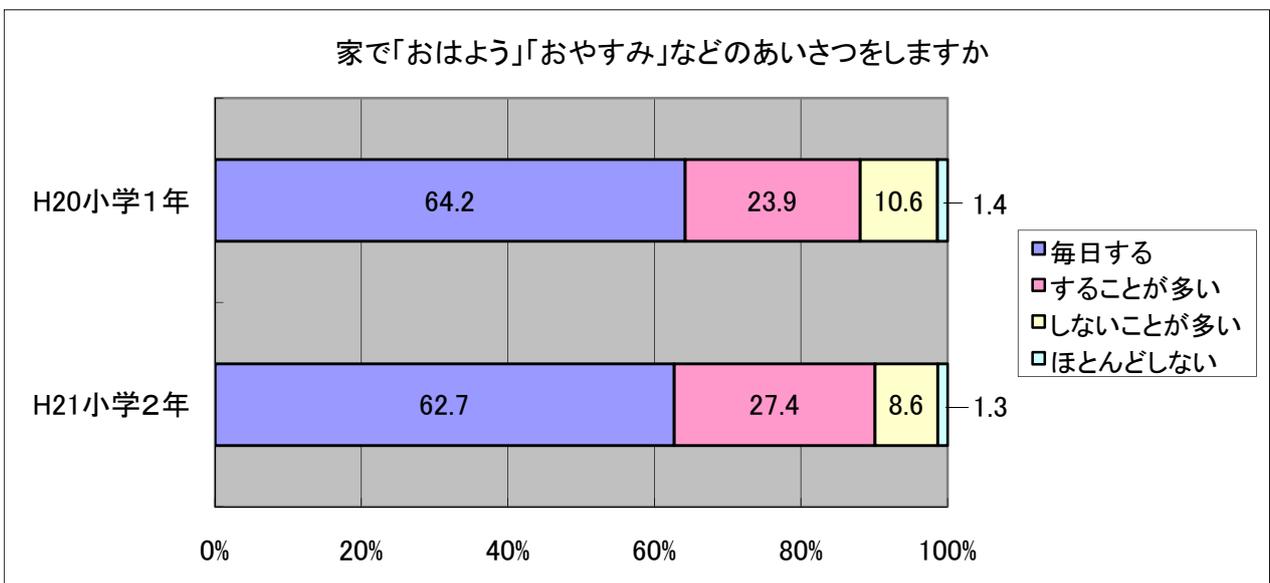


9時から10時までに就寝する児童が約7%増加したことは、発達段階によるものと考えられる。ほぼ10時までに就寝しているが、10時以降に就寝している児童も昨年と変わらず、8%以上いることは、課題である。



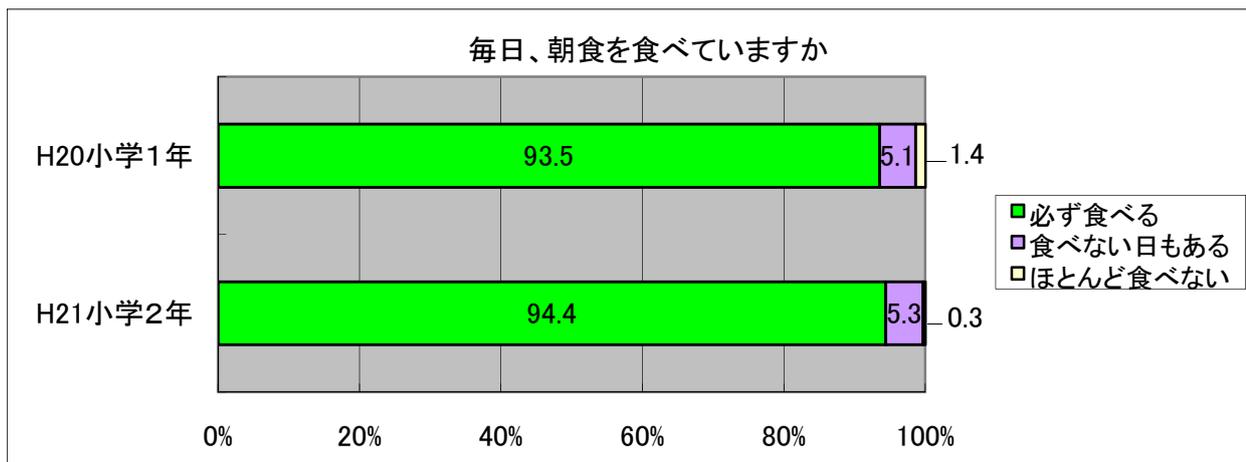
午後10時以降に寝る児童が、約5%増加し30%を越える割合となった。平日には、10時までにほとんどの児童が就寝しており、休日前日の生活リズムには、差があることがうかがえる。

2 基本的な生活習慣について

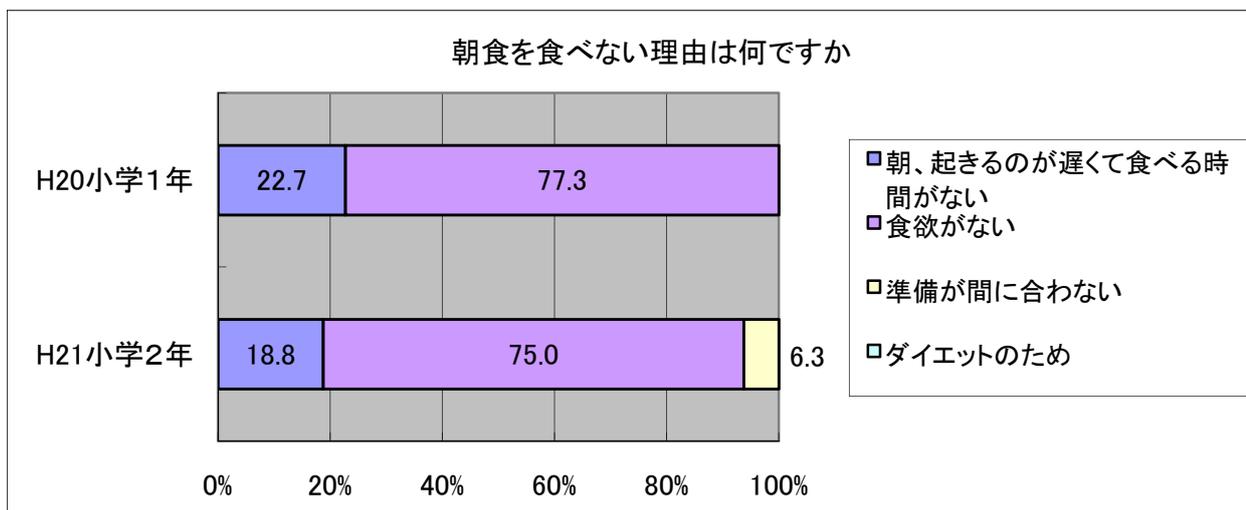


「毎日する」と「することが多い」と答えた児童が全体の90%を上回り、H21よりもよい結果となった。本年度のテーマの「保護者によるあたたかい言葉かけ」の実践の成果であると考えられる。

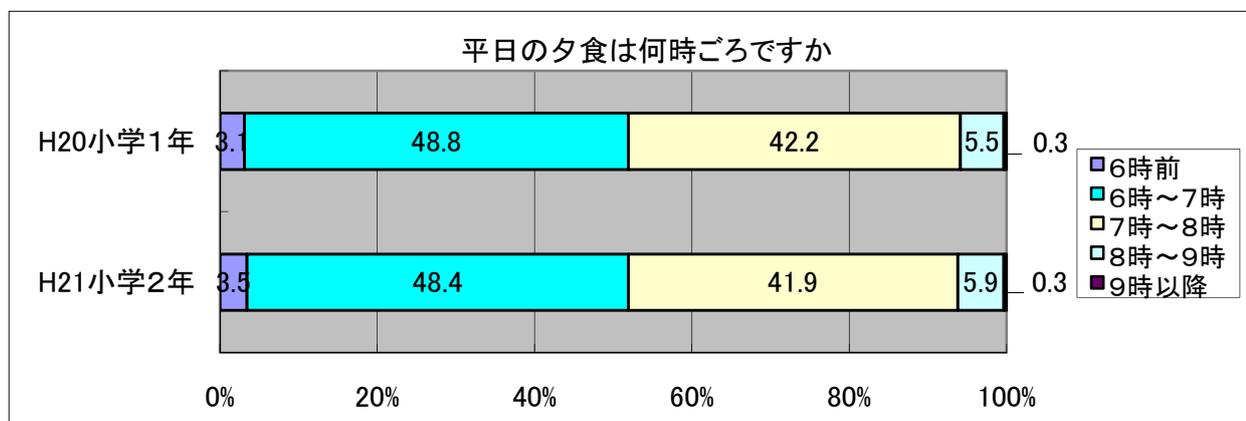
3 食育について



必ず食べる児童が増加し、ほとんど食べない児童が0.3%となり、ほとんどの児童が朝食が定着してきている。しかしながら、「食べない日もある」と答えた児童も昨年と変わらず5%以上おり、引き続き支援策が必要である。

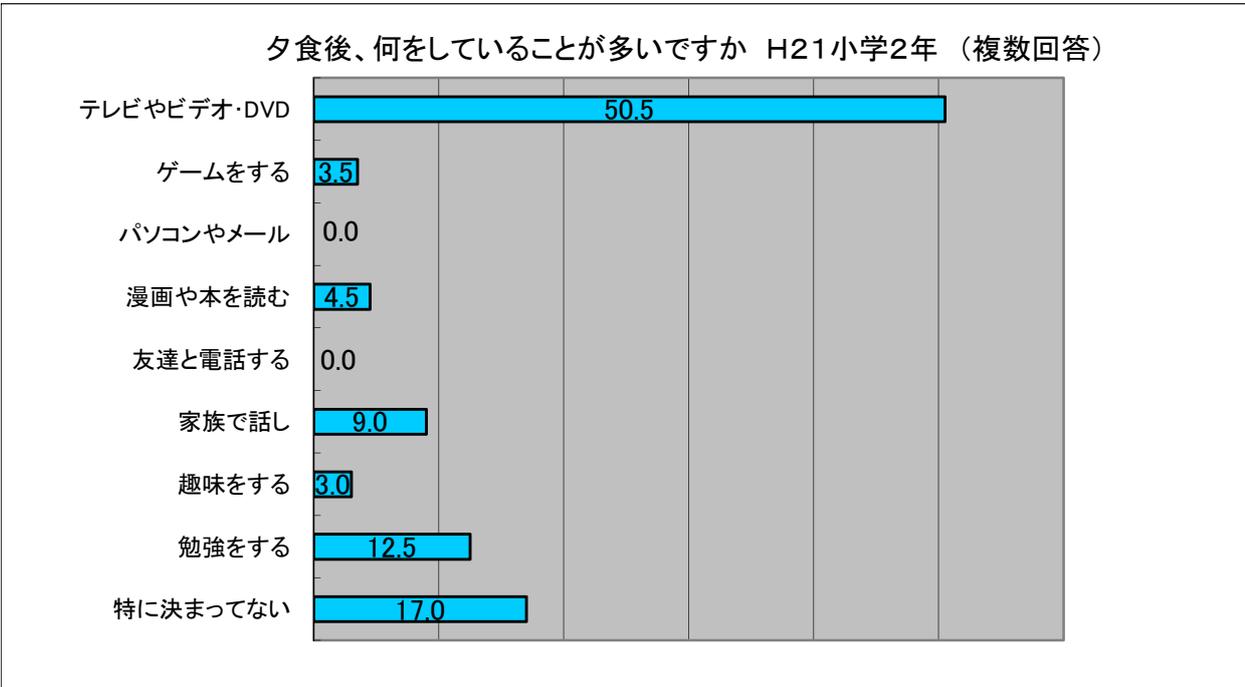
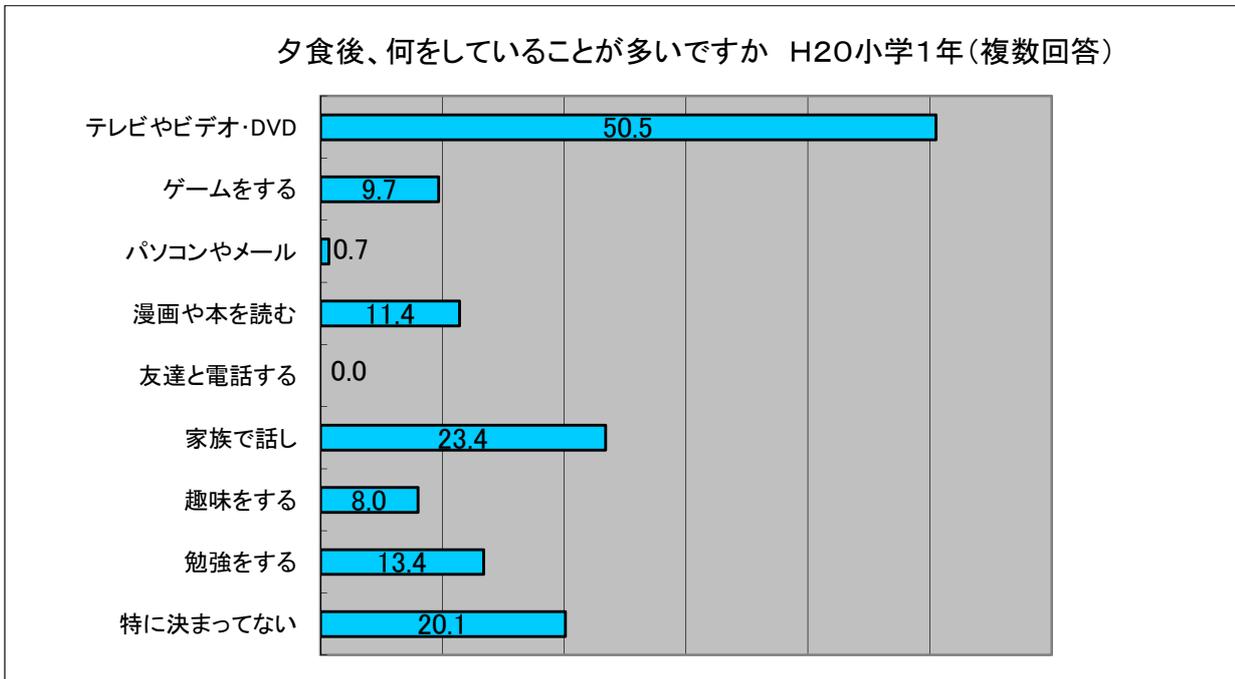


「起きるのが遅い」「食欲がない」を理由とする児童は減少したが、「準備が間に合わない」ために朝食を食べない児童が新たに出てきた。就寝前に登校準備をする習慣づくりが課題である。

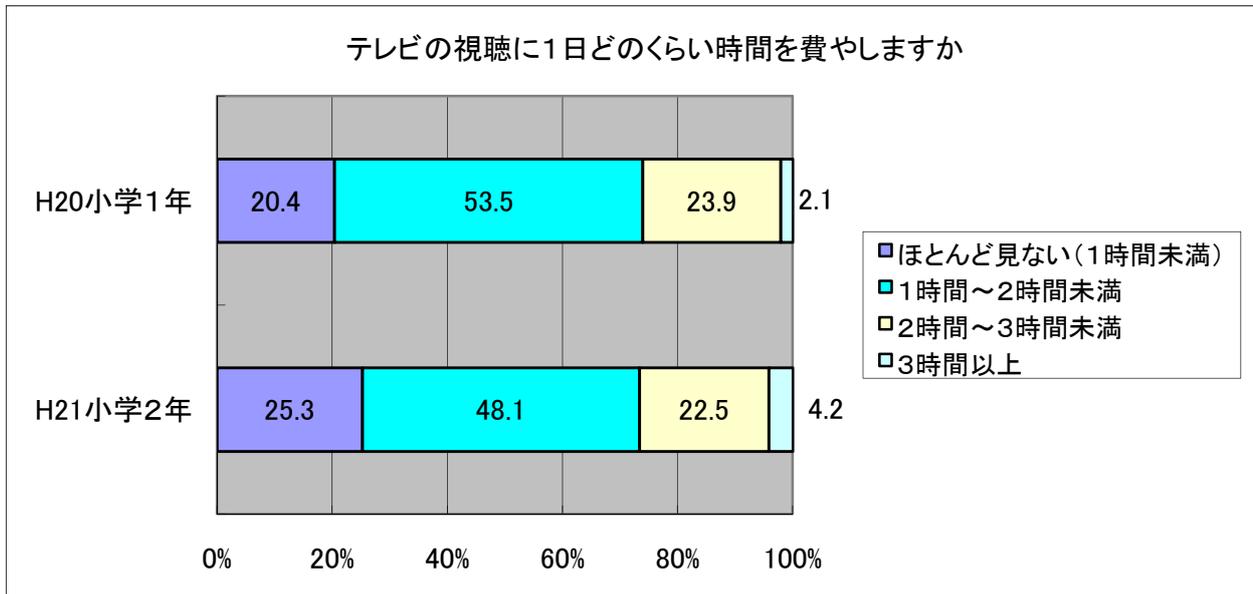


H21は、H20とほぼ同様の結果が出た。ほとんどの児童が、午後6時から8時までに夕食をとっている。

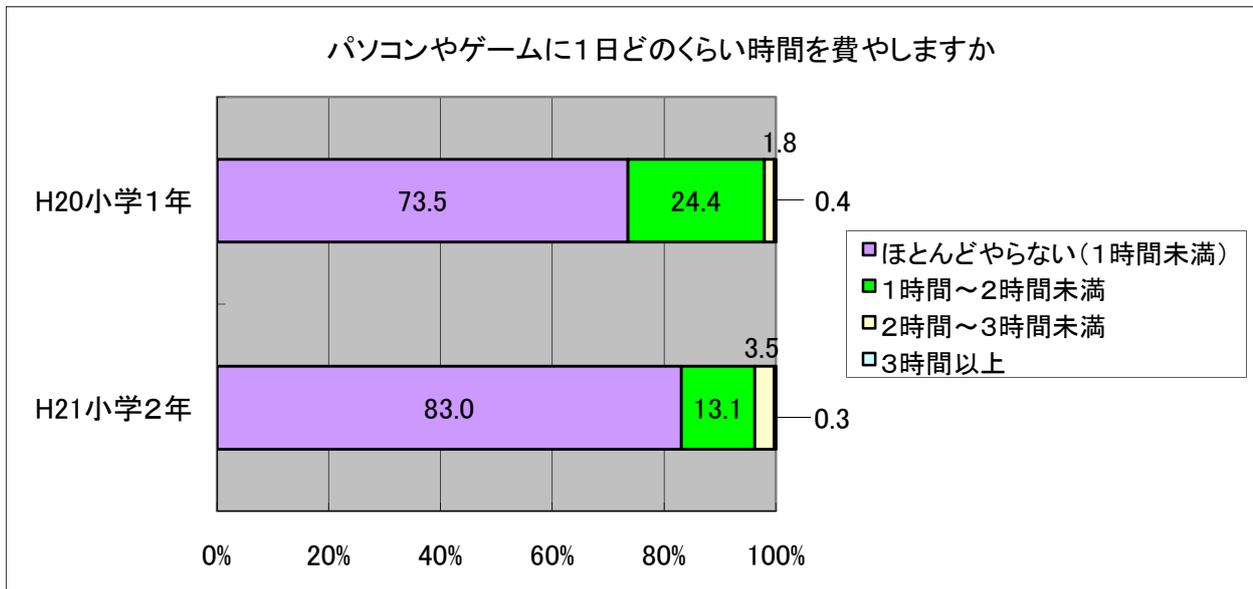
4 生活について



テレビやビデオ・DVDを見る児童は、H20と同率であったが、他の項目は全て減少した。



「ほとんど見ない」児童が約5%増加したことは、ノーテレビデイの成果であると考えられる。しかしながら、2時間以上テレビを視聴する児童も26.7%となり減ってはいない。



「ほとんどやらない」とした児童が約10%増加したことは、家庭での継続的な取組の成果であると考えられる。